

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 松ヶ江南 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

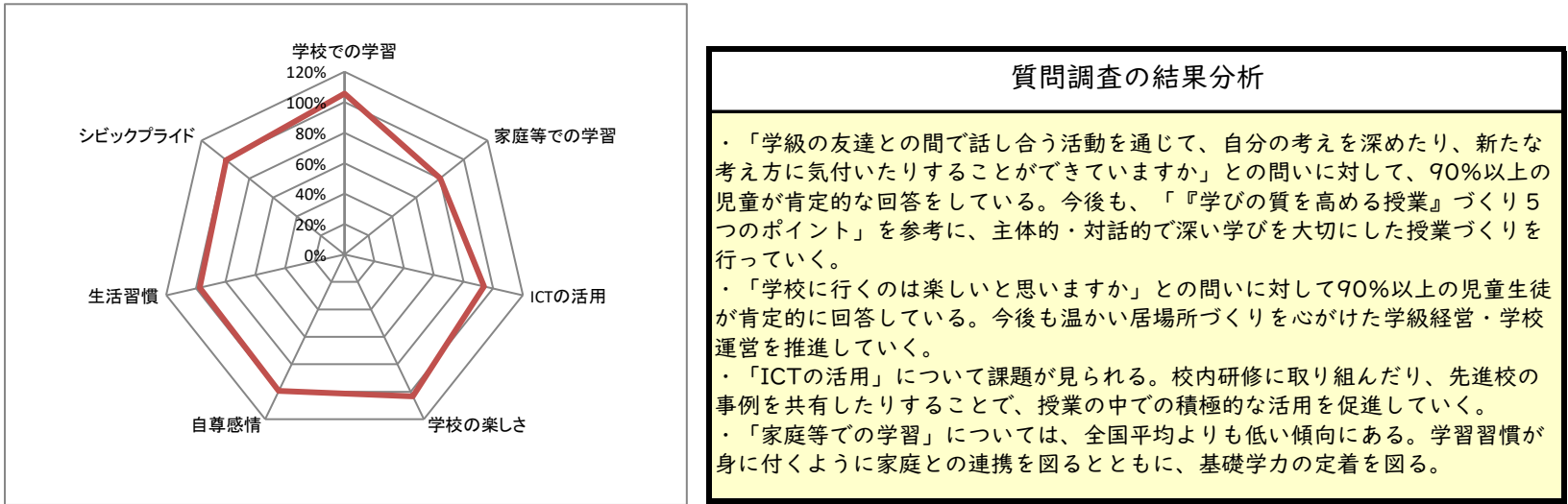
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回っているが、「知識・技能」「思考・判断・表現」共に選択式の問題については全国平均正答率を上回っている。短答式・記述式の問題については、全国平均正答率を下回った。無回答率については、全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較
			下回っている
	よくできた問題	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかを問う問題（知識・技能）において、全国平均正答率を大きく上回った。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかを問う問題（思考・判断・表現）において、全国平均正答率を下回っている。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回っているが、「知識・技能」を問う問題については、全国平均正答率を上回っている。国語科同様、選択式の問題については全国平均正答率を上回っているが、短答式・記述式の問題については、全国平均正答率を下回る問題が多かった。	全国平均正答率との比較
			下回っている
	よくできた問題	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかを問う問題（思考・判断・表現）において、全国平均正答率を大きく上回った。	
	努力が必要な問題	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかを問う問題（知識・技能）において、全国平均正答率を下回っている。除法の計算など、基礎基本の定着を引き続き図っていく必要がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

・北九州市教育委員会が示している「『学びの質を高める授業』づくり5つのポイント」の活用を主題研修に位置付け、めあて・まとめ・振り返りを充実させることで、児童が「わかった」「できた」と感じることができる授業づくりを行っていく。

・学習規律の定着を図り、落ち着いた雰囲気の中で学習を進めることで、基礎学力の定着を目指す。
- ② 家庭生活習慣等に関する取組

・「学校だより」や「ほけんだより」を活用し、規則正しい生活習慣の大切さを家庭に伝えるとともに、学級指導や保健指導を通して児童に規則正しい生活習慣を身に付けることの大切さについて指導していく。

・本年度、中学校区で「あいさつ」「黙働」「ICT活用」に取り組むなど、9年間を見通した教育活動に取り組んだ。生活習慣等の改善についても校区で連携をし、小中で一貫した取組を推進していく。